

平成30年度やまがた緑環境税特集号

森林やまがた



上：やまがた緑環境税の支援を受けて整備を行った森林(鮭川村)
左：やまがた森の感謝祭2018(飯豊町)
右：BEST! 森づくりリーダー育成講座(金山町)

もくじ	やまがた緑環境税を活用した森づくり …… 2	各地域における森林整備の取組み …… 6
	やまがた緑環境税を活用する事業の考え方と展開… 3	県民参加の森づくりの推進 …… 10
	やまがた木育推進事業の取組み …… 4	自然環境保全の取組み …… 14
	荒廃森林整備事業モニタリング調査の実施状況 … 5	やまがた緑環境税PR活動の取組み …… 16

県民の皆様の御協力に深く感謝申し上げます

「やまがた緑環境税」は県民共有の財産である森林を守る事業に活かされています

やまがた緑環境税を活用した森づくり

企業の森づくり ～やまがた緑環境税に感謝を込めて～

山形ゼロックス株式会社 かねやま絆の森事務局 横山 あずさ

私が所属する山形ゼロックス㈱は、山形県、金山町、森林所有者の(株)三英クラフトと「やまがた絆の森協定」を締結し2010年から活用事業に採択いただいて金山町で森づくり活動を始めました。今年10周年を迎えるにあたり、やまがた緑環境税のご縁でつながってくださった県民の皆様にご場をお借りして心から感謝申し上げます。

平成29年のやまがた緑県民会議では、現地視察で「かねやま絆の森」に来ていただき、県民を代表する委員の方々に交付金の活用について説明させていただいたことがあります。緊張感のある中で直接皆様の声を耳にしてお顔を拝見したことで、その後の補助金のありがたみの感じ方が正直、全然違いました。やまがた緑環境税とは、県民の皆さんから期待され、応援されて託された櫛（たすき）なのだと初心に帰る良い機会でした。



かねやま絆の森は、当社の社員を中心に9年間で現地活動21回、26の企業・組織から延べ911名が森づくりに励んでいます。参加者は整備の作業員ではありません。一人ひとりが「やまがた絆の森親善大使」であり「企業の森づくり親善大使」の顔をもって活動しています。「やまがた緑環境税をいただきながら活動するとはそういうこと」そう、参加者に声を掛け続けると本当に親善大使として物事をとらえ、周りに気遣いができるようになるから不思議です。地域のため、見えない誰かのために考え、行動できる人へと成長していきます。木を育てながら、人が森に育てられていくところを見てまいりました。これまで食育、木育、森と川と海をつなぐおさかなプロジェクト、山形交響楽団と地元の子供達をつなぐ交流コンサートと地域の中で様々な活動をさせていただきました。やまがた緑環境税という県民からの櫛（たすき）があって、ここまでつなげてこられたことにあらためて感謝です。



今後の期待ですが、やまがた緑環境税が地元企業の社会活動と県民活動をつなぐ縁むすびになればと願います。多くの企業が地域に対し、なんらかの社会的なアクションを起こしたいと考える一方で、企業だけで突然、地域の中に入り込むのは難しさがあり、どう行政とつながりを持ったらいいのかも苦労しています。例えば地域の課題を地元の方々と共有しながら一緒に活動できることが、おそらく皆様にとって一番嬉しい関係性になれるのではないのでしょうか。

今、世の中は国連が提唱する「SGDs（持続可能な開発目標）」の達成に向けて世界中が一つの輪になろうとしています。山形では緑環境税活用事業で取り組めるターゲットがたくさんあります。SGDsで大切なのは、仲間を見つけてパートナーシップで目標を達成することです。やまがた緑環境税が縁となってつなぐ未来の山形づくり。今こそ、企業も行政も、県民も心をつなげる時代になりました。



H30 やまがた緑環境税活用事業 792,876千円 (うち やまがた緑環境税 698,215千円)

I 環境保全を重視した森林施策の展開【森林環境緊急保全対策事業費】624,886千円(うち やまがた緑環境税 530,225千円)

① 環境保全を重視した森林整備の推進(575,419千円 うち 緑環境税 480,758千円)

◇荒廃森林緊急整備事業 事業量 1,120ha(林業振興課:575,419千円 うち 緑環境税 480,758千円)

■人工林整備 事業量 636ha(林業振興課:328,653千円(うち 緑環境税 233,992千円))

手入れが不十分で荒廃のおそれのある人工林の整備

やまがた緑環境税による整備 374ha
国庫補助事業を活用した整備(森林環境保全直接支援事業等) 262ha

○針葉樹林維持型

人工林を適正に維持、管理するための間伐や森林作業道の設置等を行う



～多様な樹齢からなる森林が面的に配備され、公益的機能が持続的に発揮される森林へ～



○針広混交林型

広葉樹との混交の促進を図る強度間伐を行う



～自然生態系が豊かで公益的機能が高度に発揮される森林へ～



■里山林整備 事業量 484ha 246,766千円(うち 緑環境税 246,766千円)

病虫害被害で活力が低下した里山林の再生。被害木の伐採や補植等を行う



～多様な樹種や年齢で構成する緑豊かな明るい里山林へ～



② 森林資源の循環利用の促進(49,467千円)

◇森林資源再生事業

事業量 70ha(林業振興課:15,678千円)

森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的に発揮する仕組みを構築するために、再造林に要する経費の一部を支援する。



◇森林資源循環利用促進事業 事業量 48,300m³(林業振興課:32,389千円)

間伐等をラミナ(集成材)、合板等用材やチップ、ペレット等の木質バイオマス燃料等として利用するための搬出等を支援し、環境保全に配慮した木材の利用促進を図る。

◇広葉樹林健全化促進事業 事業量 1,400m³(林業振興課:1,400千円)

ナラ枯れ被害林を伐採し、チップ等への活用併せ、害虫の駆除とナラ林の若返りを図るため、搬出及び作業道の設置を支援する。

II みどり豊かな森林環境づくりの推進 (145,835千円)

① 県民参加の森づくりの推進 (132,845千円)

【みどり豊かな森林環境づくり推進事業】(みどり自然課:118,676千円)

地域住民や市町村が行う計画的かつ広がりのある活動や地域と連携して行う森づくり活動等への支援

- 1 豊かな森づくり活動 (地域住民との協働による里山林の保全活動)
- 2 自然環境保全活動 (希少野生生物の生息地の保全活動)
- 3 森や自然とのふれあい活動 (子ども達や地域住民に対する森林・自然環境学習)
- 4 木に親しむ環境づくり (木材の地産地消の取組み)

【やまがた絆の森づくり推進事業】(みどり自然課:914千円)

企業と地域が連携した森林の保全・活用と里山の活性化に向けた取組みの支援

- 1 企業・森林所有者・県による「やまがた絆の森協定」に基づく森づくり活動の推進
- 2 整備森林のCO₂森林吸収量認証による森づくり活動の見える化

【森づくりサポート体制推進事業】(みどり自然課:13,255千円)

地域住民や市町村、企業による森づくり活動を総合的に支援

② 自然環境保全対策の推進(12,990千円)

【生物多様性戦略推進事業(一部)】

(みどり自然課:3,668千円)

自然環境の変化等についての総合的なモニタリング調査

【鳥獣管理推進事業(一部)】

(みどり自然課:7,647千円)

里山など森林に生息する大型野生動物の実態調査

【野生鳥獣捕獲体制強化支援事業(一部)】

(みどり自然課:280千円)

人と野生鳥獣の共生の担い手育成

【大型野生鳥獣等野生復帰事業(一部)】

(みどり自然課:1,395千円)

傷病等で救護された野生鳥獣の復帰支援

III 豊かなみどりを守り育む意識の醸成 (22,155千円)

① 森林・自然環境学習の推進 (3,991千円)

【やまがた木育推進事業】(みどり自然課:3,991千円)

- 1 やまがた木育推進委員会の開催
- 2 子どもの成長段階に合わせた木育教材の開発等
- 3 やまがた木育理解促進のための講演会の開催等

② みどりを育む意識の醸成 (17,727千円)

【みどりの循環県民活動推進事業】(みどり自然課:13,864千円)

- 1 やまがた森の感謝祭等の開催
- 2 森を守り、育て、暮らしに活かす「緑の循環システム」への理解を深める各種体験イベントの開催(森のホームステイ、間伐体験、木工教室等の開催)
- 3 やまがた緑環境税の普及啓発(PVパネル展の開催や広報誌「もりあ」の発行、各種情報発信サービスの活用等による普及啓発)

【やまがた山水百景魅力アップ事業】(みどり自然課:1,145千円)

やまがた百名山マップでのやまがた緑環境税PR

【総合支庁実施事業】(総合支庁:1,845千円)

- ◇村山総合支庁 ・むらやま版・木のある生活推進事業(森林整備課)
- ◇上総合支庁 ・BEST! 森づくりリーダー育成事業(森林整備課)
- ◇置賜総合支庁 ・置賜みんなと一緒に森林活動ネットワーク事業(地域保健福祉課)
- ◇庄内総合支庁 ・おきたま源流の森づくり活動推進事業(森林整備課)
- ◇庄内総合支庁 ・出羽庄内公益の森づくり事業(森林整備課)

【やまがた緑環境税広報事業】(税政課:873千円)

やまがた緑環境税の周知、広報

③ やまがた緑県民会議 (437千円)

【やまがた緑県民会議事業】

(みどり自然課:437千円)

やまがた緑環境税活用事業の評価・検証等



「やまがた木育」を進めていきます

(みどり自然課)

◎「やまがた木育推進方針」の策定

本県は、県土の約7割が森林(約67万ha)であり、中でもブナの天然林(約15万ha)においては、全国一の面積を誇るなど豊かな森や自然に恵まれています。

また、先人のたゆまぬ努力により、豊かな自然と共生する伝統や文化を育んできました。このような「美しい豊かな自然」や「自然と共生する文化」というやまがたの宝は、先人から引き継いだ県民共有の財産として、今日まで大切に守られてきました。

これまで、県では、県民参加の森づくりや森林・自然環境学習を通し、やまがたの宝を守り育てる大切さを伝える取組みを行ってきました。さらに、これらの取組みをさらに進めるため、平成30年3月に「やまがた木育推進方針」を策定し、「やまがた木育」を進めることとしました。

◎「やまがた木育」とは・・・

森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直すものです。そして、森や自然の恵みに感謝し、自然との共生の文化を理解・共感できる豊かな心を育み、森との絆を深め、暮らしの中に木を活かしていくことです。

やまがたの宝を守り育てていくためには、森づくりや森林資源の活用を県民みんなで支え、推進していくことが必要です。

「やまがた木育」の推進は、森や自然に感謝する心を育み、やまがたの宝を守り育てる人づくりにつながります。さらには、「やまがた緑環境憲章」でうたう「やまがたの美しい豊かな森や自然を未来の子ども達に引き継ぐ」ことにもなります。

◎皆さん一緒に取り組みましょう! ~「やまがた木育」の3つの活動~

「やまがた木育」は、「やまがた木育推進方針」に基づき、「触れる」・「創る」・「知る」という3つの活動を展開していきます。

触れる：森や木の良さを五感で感じ、森や木に対する興味と関心を育む活動

創る：植樹体験などの森づくりの活動や、木工の楽しさを体験したり、木製品への愛着を育む活動

知る：森の働きや木材利用の意義など、科学的な視点も取り入れながら、深く森や木について学ぶ活動

人と人が関わり合う活動にすることで、県民参加の森づくりの輪を広げます。また、年齢、森や木に対する理解及び経験などに合わせた内容にすることで、参加者一人ひとりに寄り添った活動にしていきます。



リーフレット



木育絵本



木育クラフト



木育ブック



小学5年生副教材
「やまがたの森林」

木に触れて手ざわり等を体感



触れる

地域の木でゴミステーションを作る



創る

森の状態を調査



知る



森のたんけん手帳

荒廃森林整備事業モニタリング調査

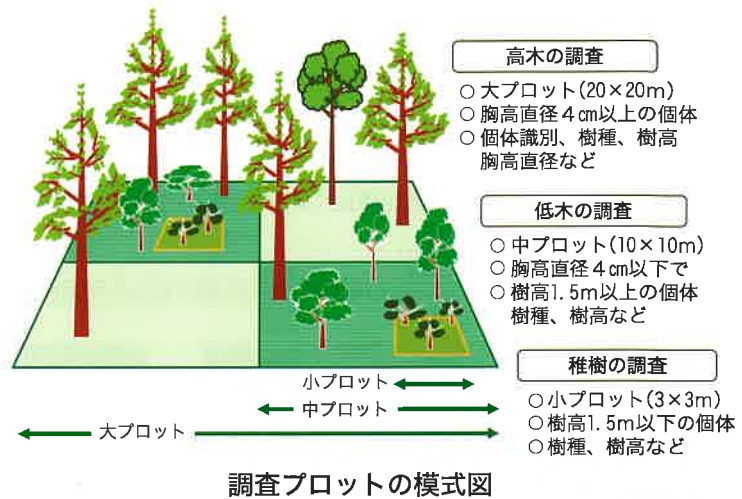
(森林研究研修センター)

1. はじめに

山形県では、「やまがた緑環境税」を活用して行った森林整備の効果を検証するため、植生や土壌の変化などについてモニタリング調査を行っています。モニタリング調査は、長い時間をかけて変化してゆく森林の様子を、長期にわたって継続的に観察を行う重要な調査です。

2. 調査の内容

調査地は、県内全域で行われた「針広混交林型整備」、「針葉樹維持型整備」、「里山林整備」と比較対照として「未整備」の森林から、それぞれ20~30箇所（全107箇所）を選びました。調査は、森林内に「大」、「中」、「小」のプロットを設置し、①森林の状況（植生の変化、樹木の混み具合など）、②樹木の成長量、③下草の種類や密度の変化、④土壌環境などについて、整備前、整備1年後、以降3年おきに実施しています。



3. 調査結果から分かってきたこと

1) 樹木の成長

樹木の現存量は、多くの調査地で整備前に比べ整備後に一旦減少しましたが、その後回復する傾向が見られました。これは林内の立木が整備されたことで、将来的に残す林木の成長が順調に成育していることを示しており、森林整備の効果が確実に表れていると考えられます。

2) 表土の流出防止機能

森林内の表土は、地面が植生で覆われるほど流れにくいことが知られています。「土砂受け箱」に堆積する土砂の量は、傾斜や雨量により変動しますが、整備箇所では着実に林内植生の量が増加していることから、表土の流出防止機能が森林整備により向上していると考えられます。

3) 植生の変化（生物多様性の保全機能）

林内の植生は、伐採作業など影響により一時的に減少しましたが、整備後は植物の種類が大きく変化する傾向があります。これは、森林整備によって生じた「空白地」に新たな植物が周辺から入り込んできたことで、植物の多様性が豊かになったと考えられます。

4. おわりに

この調査は平成19年から開始され、最も長い調査地では10年以上続いています。10年以上も多くの地点で森林の整備状況のモニタリング調査を行っている例は、全国でも珍しく貴重なデータといえます。今後も引き続き調査を行ってまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



村山地域における森林整備について

1. これまでの森林整備について

長年放置された森林、荒廃のおそれのある森林、病虫害などで荒廃した森林等の整備について、やまがた緑環境税を活用して、平成19～29年度までに4,067haの森林整備を実施しました。

2. 平成30年度の森林整備について

県が行う委託事業は、荒廃のおそれのある人工林の針葉樹林維持型として195haと森林作業道2,455m、病虫害などで荒廃した里山林整備として62haの森林整備を実施しました。

また、補助事業として、人工林の搬出間伐を40haと森林作業道3,187m、幹線道路沿い等で著しく景観を損なっている里山林については、「森林景観整備」9ha、「人と動物との共存林」11haの森林整備を実施しました。

今後も荒廃のおそれのある森林等の計画的な森林整備と事業のPRに取り組んでいきます。



整備前



整備後

【針葉樹林維持型
の実施状況】



整備前



整備後

【里山林整備の実施状況】



森林作業道



PR 看板

【左：森林作業道の整備状況】
【右：PR看板の設置状況】

最上地域における森林整備について

1. これまでの森林整備について

最上地域では、長年人手が入らず、整備されていない荒廃の恐れのある森林を、やまがた緑環境税を活用して平成19年度から平成30年度までに約2,613haの間伐等の整備を行っています。今後も荒廃の恐れのある森林を健全でかつ公益的な機能の発揮ができる森林に導くため、間伐や森林の管理に必要な森林作業道の整備を進め、人と森林が調和できるよう、整備に取り組んでまいります。



間伐後の森林の状況(舟形町)

2. 平成30年度の森林整備について

平成30年度は、荒廃の恐れのある森林のうち、スギの人工林等を維持していくための整備を中心に、間伐178.2haとその森林内に、森林作業道5,466mを整備しました。

また、里山の景観改善や人と野生動物の共存を目的に、活力の低下した里山林11.4haを対象に、刈払いや不良木の伐採、枝落しなどにより森林の整備を行いました。



間伐による人工林の整備状況(舟形町)



森林作業道の整備状況(金山町)



里山林の整備状況(最上町)

3. 再造林への支援について

最上地域では、平成28年度から、積極的にやまがた緑環境税を活用し、皆伐跡地への再造林へ支援しており、平成30年度は18.4haのスギ林を再生しました。今後も森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的な発揮のため、支援を継続してまいります。



平成29年度に再造林を実施した箇所(最上町)



平成30年度に再造林を実施した箇所(最上町)

置賜地域における森林整備について

1. 平成30年度の森林整備の状況

荒廃のおそれのある人工林や病虫害などにより活力が低下している里山林のうち、約121haの森林整備を行いました。

森林の公益的機能の維持増進と持続的発揮を図るため、約2haのスギ等の植栽に係る再造林経費の一部を支援するとともに、国庫補助事業を活用した搬出間伐及び森林作業道の開設についても支援を行いました。

今後とも地域座談会等をとおして、多くの森林所有者の方々にやまがた緑環境税の認知度向上と本税を活用した森林整備事業のPRに努め、着実な整備を図っていきます。



【針葉樹林維持型】

(小国町)

手入れ不足により木が混み合い、生育不良となっていたことから、公益的機能の拡充強化のため、スギが健全に生育できる空間を確保する間伐を行いました。



【里山林整備】

(長井市)

松くい虫とナラ枯れ被害を受けて枯損した木が多く残っていたため、倒木等による二次被害の防止と健全な里山林の再生を目的とした枯損木の伐採を実施しました。



【森林資源再生事業(再造林)】

(白鷹町)

スギの伐採跡地において、造林を行わず放置すると公益的機能が低下する恐れがあったことから、スギの再造林を行いました。

2. 「やまがた緑環境税」PR活動の取組み

やまがた緑環境税を活用した森林整備の周知を図るため、県民の目に触れる機会が多い箇所看板を設置し、森づくりへの普及啓発に努めています。



庄内地域における森林整備について

1. これまでの森林整備の状況

庄内地域では、やまがた緑環境税を活用し、平成19年度から平成29年度の11か年で荒廃のおそれのある森林の整備を4,626ha実施しました。

平成30年度以降も引き続き、荒廃のおそれのある森林を健全な森林に導くための間伐や森林の管理に必要な森林作業道の整備を進めることで森林の公益的な機能の維持増進が図られるよう計画的な整備を進めていきます。

海岸クロマツ林整備



2. 平成30年度の

森林整備の状況

庄内総合支庁では病害虫被害を受け、活力が低下している庄内海岸のクロマツ林において、里山林再生を目的としたクロマツの枯損木伐倒を約250ha実施しました。また、林業事業体や市町が主体となる人工造林約8ha、搬出間伐約250ha、森林作業道約36,000m、森林景観約整備約25haに支援を行いました。

景観整備



庄内地域における松くい虫被害については、平成14年をピークに減少傾向にありましたが、平成24年から再び増加傾向となり、平成28年には過去最大の被害量(31,228㎡)となりました。被害量は現在減少傾向にはありますが、庄内総合支庁では病害虫被害を受け、活力が低下している酒田市・遊佐町の海岸のクロマツ林において、里山林再生を目的としたクロマツの枯損木伐倒・破碎処理を約280ha実施しました。また、林業事業体や市町が主体となる再生林約8ha、搬出間伐約250ha、森林作業道の開設約36,000m、森林景観整備(幹線道路沿いで景観が悪化している里山林の整備)約25haに支援を行いました。

森林作業道の整備



再生林



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村里山再生アクションプラン))

【上山市の取り組み】

上山市では、平成26年の豪雨により金山地区の江戸時代に栄えた羽州街道に沿って流れる金山川が氾濫し、街道を覆っていた土砂が流され、斜面や路肩を守る石積み及び路盤など江戸時代の遺構が現れたことをきっかけに、地域住民とともに金山地区の保全活動に取り組んでいます。

街道周辺の下刈りや倒木及び支障木の伐採・チップ化、木道修繕等、森林資源を利活用するとともに、自然環境及び史跡の学習会や遺構調査体験などを合わせて行いました。

保全活動を通して、地域の森や自然と触れ合い、自然とうまく付き合いながら街道を守る先人の知恵や努力を学び、人と森林との関わりや地域の歴史・文化の理解を深めました。



学習会の様子



木道修繕

(2) NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【ガールスカウト山形県連盟の取組み】

ガールスカウト山形県連盟では、2015年、連盟25周年を記念して、山形市みはらしの丘に「ガールスカウトの森」を造成しました。豊かな生活を支え、多くの恵みを与えてくれる森林を守り育てることの大切さを仲間とともに学ぶことを目的に植樹・保育活動をはじめ、森林学習を行っています。春は下刈りや森林環境学習、秋は葛の根処理やきのこの植菌、バードウォッチングを行いました。2022年度までの計画を作成し、継続的・意欲的な森づくり活動に取り組んでいます。



【一般社団法人アップルランドの取組み】



アップルランドでは、朝日町「りんご温泉」に隣接する山林の環境整備を行い、子ども達と遊んで学べる森林自然体験学

習を行っています。

今年は、自分たちで歩道や看板を整備し、それらを活用して地元保育園の園児たちと森林のすばらしさや大切さ、楽しさを学んでいます。

町役場や町青年有志会、町観光協会などの幅広い団体との連携・協力を得て、朝日町の里山の魅力を発信しています。



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村里山再生アクションプラン))

【新庄市 自然環境保全活動の取り組み】

新庄市では、市内で自然環境保全活動をしている地域団体に対し、活動の支援を行っています。

近年、市内福宮地区でチョウセンアカシジミの生息が再確認されてから、平成28年に地区有志による「福宮チョウセンアカシジミを守る会」が立ち上がり、その生息環境の保全に取り組んできました。

市では同会と協働で、幼虫の餌木となる「トネリコ」の植栽、観察歩道の整備、雑草の刈払いなどの環境整備を実施し、チョウセンアカシジミが暮らしやすい環境や、毎年観察できる体制作りを行っています。

これからも地域の宝として地元の小学生を対象とした観察会などを開催し、保護活動を継続していくことでしょうか。



地域の子供達とトネリコの植栽

(2) NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【パリス保育園の取り組み】

新庄市のパリス保育園は、園舎脇の森をフィールドとして、子ども達が活動する森の環境整備や、森の中での観察会などの自然環境学習を行っている団体です。

今年度は、子ども達が活動する森の環境整備として、丸太橋やみんなが集うためのテーブルやベンチ作りや、自然環境学習では、木のはたらき・



テーブル・ベンチ作り

森の恵み・四季の変化などを学習し、観察会も行いました。

森の持つ不思議な魅力を子ども達から園に関

わる多世代の人まで、森や木の魅力の伝え合いが生まれ、森へ関心をもってもらえることができると思います。



自然環境学習

【遊学の森案内人会の取り組み】

金山町の遊学の森案内人会は、遊学の森を拠点として、地域参加型森づくり活動や、地域の親子や隣接する小学校と連帯し、里山整備を行っている団体です。

今年度は、森の案内人や地域のボランティア活動により、里山の整備と一体化しジオトープ（水辺環境）づくりや、大清水沢周辺（水源の森）のカタクリの里整備、貴重な動植物の保護活動などを通し、森林と水との関係、里山と動植物との関係、森林と林業の関係、人と自然との共生等について、参加型森づくり活動を行いました。

活動を通じて、自然環境の大切さ、森林への関心を深めていければと思います。



かたくりの観察会



水辺の動植物観察会

(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村里山再生アクションプラン))

【白鷹町の取り組み】

白鷹町では、置賜管内で生産される木材の良さを体感してもらうため、町が主催するイベントで親子木工教室を開催しています。(木育推進プロジェクト 木工体験事業)

今年度は、9月22日から23日の鮎まつり、11月4日の白鷹町産業フェアにおいて、162組の親子が参加し、町内の大工さんの指導を受けてイスづくりを体験しました。



木材に直接触れることで、参加した親子に木の良さを感じてもらい、森林への関心を持ってもらうことができました。

今後も「ものづくり」を通して、作ることの楽しさを知ってもらうとともに、「木育」の輪が広がることを期待しています。



(2) NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【ネイチャーフロント米沢の取り組み】

ネイチャーフロント米沢では、西吾妻山における植生回復作業や里山における動植物観察会を通して自然の良さを感じる活動を実施しています。

今年は、米沢市の斜平山と川西町の小森山湿原で植物観察会を行い、立川遊水地でバードウォッチングなどを行ったほか、西吾妻山でも観察会を実施し、高山植物やこれまで植生回復を行って回復しつつある湿原を紹介し、この環境を保全する意義について参加者に伝えました。



【豪士山の会の取り組み】

豪士山の会では、高畠町東南に位置する豪士山の町内最大規模のブナ二次林を整備保全する活動や、美しいブナ林を未来へ継承させるため、地元の子どもや町民を対象に登山を通じた自然環境学習を行っています。

今年度の登山では、同行した植物の先生が豪士山に自生した植物などの見所を紹介し、その後森林散策を行いました。参加した子ども達はブナ林の美しさを堪能し、自然環境を守ることの大切さを学びました。



(1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村里山再生アクションプラン))

【三川町の取り組み】

三川町は県内で唯一山の無い自治体であり、木や森を身近に感じたり親しんだりする場所が少ない地域です。そのため、木造施設や木製遊具・木に関する書籍など、木の良さを体感できるモノや場所を、森林との触れ合いの空間として捉え、町内の教育・保育施設や公園など多くの利用者が見込まれる場所への木製品の設置を行うとともに、それらを活用した森林学習や植樹活動など、木に対する興味や好奇心を引きつける「木育」を実施しています。

また、町内の組織と連携し、県内各地の「里山」を現地のガイドの方々と一緒に散策する「里山あるき」を通して、実際に森林に触れ合う機会を設ける取組を行っています。

このような「木育」や「里山あるき」などの活動を通し、自然を愛し続ける心の醸成を図りながら、県産材の利用促進にも力を入れ、みどり豊かな森林の存続と育成に対する意識の高揚に繋がる活動を推進しています。



(2) NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

【NPO法人明日のたねの取組み】

NPO 法人明日のたねは、豊かな庄内の自然観察・散策・森林資源の利活用などの体験活動や環境学習を行っています。森から海へのつながりを山や川の生き物を通じて考え・遊び・学んだ「夏の野外活動」や、森林組合の方々から協力を頂き「森林の話と木工制作」などを実施しています。

今年度は当法人の子育て支援事業の活動が認められ「やまがた公益大賞グランプリ」を受賞することができました。今後もより一層、子ども達を育む森や自然とのふれあい活動を推進して参ります。



【やまぶどうの会の取組み】

やまぶどうの会が運営している主婦レストラン「やまぶどう」の料理には、地域の方々が届けてくださる山の食材がふんだんに入っています。しかし、山に入る人が少なくなり、山の食材を使った地域伝統の料理の味を引き継げなくなっているという現状があります。

そこで、トレッキングをしつつ、地域住民から若い方々に、山の恵みとはどういうものか、収穫から食卓に並ぶまでのプロセスを教えていただく、「北月山のトレッキングと山の恵み」を開催しました。活動を通じて「山を保全する意識」を高められたと思います。



自然環境保全の取組み

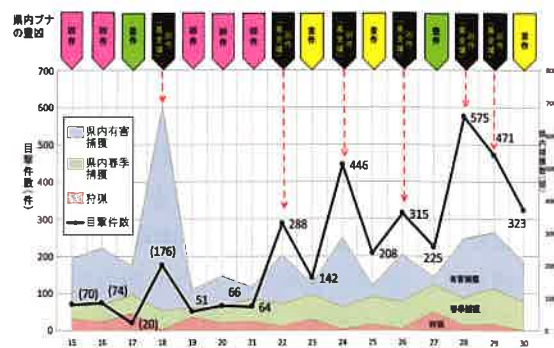
(みどり自然課)

人と自然が共生し、将来の世代にわたり「生物多様性がもたらす豊かな恵みを楽しむ山形の実現」を目指し、野生生物の調査や有害鳥獣の管理などの自然環境の保全に取り組んでいます。

1 生物多様性の保全の取組み

(1) ブナの豊凶結果とツキノワグマの目撃件数の推移

森林の更新や野生動物の生息動向に影響を与えると考えられるブナの豊凶を調査しています。ブナの凶作の年にはツキノワグマの目撃件数が多くなる傾向が見られることから、注意喚起に役立てています。昨年はブナが並作となり、目撃件数は前年比で減少しましたが、出産が安定することにより今年が目撃件数の増加が懸念されます。



ブナの豊凶とツキノワグマの目撃件数の推移

(2) 蔵王のアオモリトドマツの被害の現状と対策

樹氷を形成するアオモリトドマツ林では、近年発生した食葉性昆虫や穿孔性昆虫の被害により、衰弱・枯死する樹木が増加しています。県森林研究研修センターでは、被害状況を調査するとともに、林地の再生方法を検討するため播種試験等を行っています。



アオモリトドマツの播種試験地の実生

(3) レッドリストの改訂（イノシシ及びニホンジカの除外）

県内野生生物の絶滅の危険度を評価・分類する動物版の「県レッドリスト」について、平成24年度から分類毎に改訂作業を進めてきましたが、この度、哺乳類、爬虫類、両生類、陸産・淡水産貝類、甲殻類、魚類の改訂を行いました。今回の改訂では、前回絶滅種に選定していたイノシシとニホンジカをリストから除外しております。また、今回の改訂の内容を反映させた動物版の「山形県レッドデータブックやまがた」を今年度中に発行する予定です。

2 里山など森林に生息する大型野生動物の実態調査

(1) ツキノワグマの生息状況調査

人身被害の防止及び農林被害の軽減を図り、人とツキノワグマの適切な関係を構築することを目標に、ツキノワグマの生息数水準の管理に取り組んでおり、ツキノワグマの生息数を把握するため、カメラトラップ調査を実施しています。



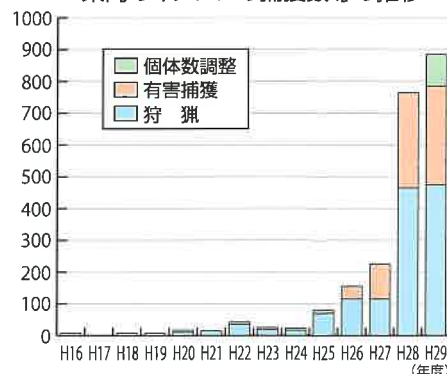
カメラトラップ調査

(2) イノシシの生息域の拡大、被害の急増

明治時代末期に県内での生息が途絶えたイノシシは、平成14年に天童市で捕獲されて以降、徐々に捕獲数が増え、平成27年度の230頭に対し、平成29年度は888頭と約3.9倍に急増しています。一方、農作物被害は平成28年度の約2,630万円から平成29年度には約5,090万円と倍近くに増加しています。

昨年10月末の市町村アンケートによると河北町と三川町を除く全市町村で生息が確認され、奥羽山脈沿いから西側へと生息域が拡大していることから、イノシシの捕獲事業や捕獲技術の研修に取り組んでいます。

県内のイノシシの捕獲数等の推移



林業関係の皆さん 注目!!

(みどり自然課)

県内でもニホンジカが目撃が増加しています!!

◎拡大するニホンジカの分布

近年、全国的に急速に生息数が増加し、分布は昭和53年から平成26年までの36年間で約2.5倍に拡大しています。増えすぎたニホンジカは、生態系や農林業に深刻な被害をもたらしており、平成29年度の農作物被害面積は約3万5千ha、森林被害面積は約5千haに達しています。また、高山植物への被害や希少種への影響なども報告されています。

政府は、平成25年に「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」を策定し、本州以南に261万頭生息すると推定されるニホンジカを平成35年までに半減させることを目指し、指定管理鳥獣として捕獲を強化しています。

◎ニホンジカによる森林被害

ニホンジカによる森林被害は、これまでは造林地における植栽木の食害が主でしたが、近年では成林したスギ等の樹皮の食害も目立つようになってきています。このような被害の発生は、林業生産コストの増大や森林所有者の経営意欲の低下を招きかねません。

また、生息密度が著しく高い地域の森林においては、食害によってシカの口の届く高さの枝葉や下層植生がほとんど消失している場合もあり、このような場所においては、土壌の流出等による森林の有する公益的機能に影響を与える恐れもあります。

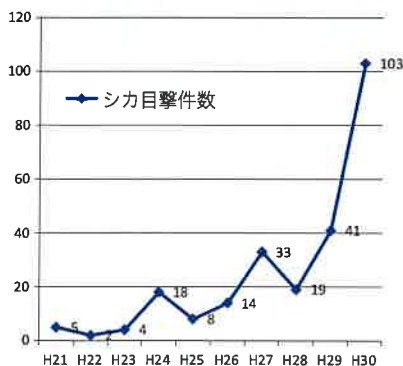
(林野庁ホームページより)



森林研究研修センターのカメラで撮影
【遊佐町】



スギ人工林における剥皮被害
【提供：滋賀県】



県内のニホンジカ目撃件数

◎県内でもニホンジカが目撃件数が急増

県内では、平成21年に大石田町で目撃されて以降、徐々に目撃件数が増え、平成30年は12月末現在103件で過去最高となりました。

また、当初、目撃情報はオスの単独個体に偏っていましたが、近年はメスや幼獣の目撃情報が増えてきており、侵入初期の段階から繁殖の可能性が懸念される段階に移行したものとみられ、ニホンジカは繁殖力が非常に高いことから、今後、爆発的に増加する可能性も懸念されます。

◎ニホンジカ管理計画策定へ

今のところ、県内でニホンジカによる農林被害はまだ確認されていませんが、ニホンジカは森林を禿山にすると言われるほど食性が幅広く、繁殖力も高いため、森林の生態系に悪影響を及ぼすおそれがあり、また、林業にも大きな影響を及ぼすおそれがあります。

ニホンジカは生息密度が低い時期から効果的な対策を行っていくことが被害防止のためには重要と言われております。県では被害防止対策などを盛り込んだ「ニホンジカ管理計画」を平成31年度中に策定する予定です。



ニホンジカ目撃位置
(2009～2018)

やまがた緑環境税のPR活動の取組み

(林業振興課・みどり自然課・税政課)

県では、県民の皆様へ「やまがた緑環境税」の趣旨や税収の使途など、制度全体の仕組みのほか、やまがた緑環境税活用事業実績の周知を図るとともに、森づくりの大切さについて理解を深めていただくため、各種イベントや普及啓発活動を行っています。平成30年度に実施した主な取組みを紹介します。

●「やまがた森の感謝祭2018」の開催

【6月2日 飯豊町「山形県源流の森」】

「守ろうよ 未来へつなぐ 緑のバトン」をテーマに県内各地から1,170名の方々が参加し開催しました。

源流の森での開催は、今回で4回目となります。会場では森から始まる命のリレー、子ども上棟式が行われるなど、開催地の特色を活かした内容となりました。



● 森林所有者を対象とした説明会の開催

県内各地の森林組合等が開催している森林所有者向けの事業説明会で、やまがた緑環境税活用事業についても説明されています。



● PRパネルの巡回展示

【37箇所 延べ1,889日実施】

各種イベントや大型ショッピングモールなどでパネル展を開催しました。パネルの展示にあわせて、木工クラフトなどの体験を行うなど、家族連れに周知を図りました。



● やまがた緑環境税普及啓発広報誌 森と人をつなぐ情報誌「もりしあ」の発行

【年2回、各20,000部】

やまがた緑環境税の認知度向上を図るため、事業の取組状況や森と人との関わりを親しみやすい内容で紹介しました。

より多くの県民の皆様にお読みいただくため、公共施設や金融機関、ショッピングセンターなど県内各地に配布しました。



● 新聞・フリーペーパー・ラジオ・プロスポーツを活用した普及啓発

【新聞広告：年1回

フリーペーパー：年3回 ラジオCMなど】

やまがた緑環境税の認知度50%を達成するため、新聞広告やフリーペーパー、ラジオCM、プロスポーツを活用した普及啓発を行いました。



★今後もより分かりやすく、
より身近に感じてもらえるようなPR活動に
取り組んでいきます★